はじめに

今日の交通社会を，より安全で持続可能なものへと高めていくためには，自然科学から社会科学，人文科学にまたがる多様な知の結集が求められる．また，世界的なモータリゼーションの潮流の中にあっても，先進国と途上国，大都市と地方との間では日々のモビリティや生活機会へのアクセシビリティに大きな格差が生じており，交通社会の多様性を重視したアプローチの重要性が示唆されている．このような時代背景の中，われわれ国際交通安全学会に求められていることは，科学的根拠や即地的状況に根ざし，学際的かつ実践的な知を追究する「交通・安全学」の構築であると考えている．

この理念のもと，国際交通安全学会が 2014 年に迎えた創立 40 周年記念事業の一環として『交通・安全学』が 2015 年に発刊された．そして 2024 年に，国際交通安全学会の創立 50 周年記念事業の一環として，本書『未来を拓く交通・安全学』を発刊することとなった．本書は，既刊の『交通・安全学』をベースとしつつ，その後の 10 年間における当該分野の発展と知見，さらには未来への提言を盛り込むかたちで改訂されたものである．本書の執筆・編集は，国際交通安全学会の会員が中心となり行った．執筆者は交通工学，都市工学，電気工学，情報工学，システム工学，機械工学，環境学，心理学，医学，法学，行政学，経済学，サステイナビリティ学から構成されており，それぞれの分野における知見のエッセンスを学際的に繋げている．とくに近年は，DX（デジタルトランスフォーメーション）や AI（人工知能）といったテーマを交通分野において積極的に議論する環境が整ってきている．そこで本書は，公共交通と MaaS（Mobility as a Service），自動運転の技術と法律，SDGs（Sustainable Development Goals）とサステイナビリティなど，この 10 年間で急速に発展してきた研究テーマを拡充した内容となっており，日本語版だけでなく英語版も刊行されることとなった．後者は特にアジア地域における途上国の教育・研究等に活用されることを意図している．

2015 年発刊の『交通・安全学』は理論編と実践編の二部構成であったが，本書『未来を拓く交通・安全学』は，理論編に相当する章のみで構成されている．本書の実践編に相当するものとして，本学会が発行する英文論文誌 *IATSS Research* において特集号 “History and Social Impact of IATSS Research Projects” を企画した．これは，これまで国際交通安全学会で実施した研究プロジェクトの成果について，

それぞれのプロジェクトリーダー等が執筆した論文で構成される特集号である．この企画も同じく国際交通安全学会の創立 50 周年記念事業の一環であり，特集号論文の著者の多くは本書の執筆者と共通している．特集号論文は，*IATSS Research* の 48-2 号と 48-3 号にて順次掲載される予定である．ぜひ本書と併せてご一読されたい．

最後に，本書の企画ならびに執筆に携わったすべての執筆者および関係者の皆様に，心より感謝の意を表したい．